

日本天文学会早川幸男基金渡航報告書

2005年9月10日採択

申請者氏名	田尻愉香 (会員番号 4677)
連絡先住所	〒120-0000 東京都 (以下、選考委員会により削除)
所属機関	京都大学大学院理学研究科
職あるいは学年	D3
任期 (再任昇格条件)	
渡航目的	研究集会でのポスター発表
講演・観測・研究題目	Characteristics of the mid-infrared SST/IRS spectra of seven nearby starburst galaxies
渡航先 (期間)	アメリカ合衆国 (2005年11月13日～11月18日)

2005年11月14日から16日まで、アメリカのパサデナで開かれた The Spitzer Science Center 2005 Conference という会議に参加し、”Characteristics of the mid-infrared SST/IRS spectra of seven nearby starburst galaxies” という題名で研究発表をしてきました。この研究会は、James, R. Houck さんの65才の誕生日を記念して、”The Infrared Diagnostics of Galaxy Evolution” の研究を目的に開催された、参加者約250名、口頭発表59、ポスター発表112ある大きな研究会でした。その内容は主に、*Spitzer* 赤外観測衛星を用いて明らかになりつつある銀河系内、近傍銀河から $z \sim 2$ 銀河のダスト研究まで多岐にわたる内容でした。そのため、会期期間中の3日間、朝9時から夜7時までみっちり赤外線天文学の review と最前線、そして英語に漬かってきました。

研究会では、共同研究者と顔を付き合わせての議論ができ、データの質の向上方法を具体的に知り、実践することができました。また今まで取り扱ってきた我々のデータに加え、*Spitzer* のアーカイブデータも加えて、論文の内容を充実させようということになりました。さらに、研究会に参加することで、私たちが今まで試していなかった指標で ([FeII] 26.0 μm /[NeII] 12.8 μm) ダストの破壊と生成プロセスを議論している研究を知り、私たちの研究の中でもその指標を使って研究することで、より深い議論ができるようになりました。それらのおかげで、今回の研究に関する論文を ApJ へ投稿させることができました。

また研究会で知り合った研究者から、私たちの研究を知って、共同研究の話も持ちかけられました。将来の研究がますます楽しみです。さらにこの渡航は、私にとって海外で行われる研究会への初参加という意味合いもありました。ですので、海外のポスドクや教授陣と初めてお話しし、彼・彼女らの旺盛な好奇心、そして研究をとて楽しんでる姿を目の当たりにし、自分の研究し始めの姿を思い出し、自分もこうありたいという思いを強くしました。また女性の多さにも、驚きました。そして子供がいても、そんなことはあたりまえで、仕事も家庭も趣味も大切に思い、それらすべてがあって自分があるという姿にも共感を覚え、ますます研究に対する意欲が高まりました。最後になりましたが、このような貴重な機会を与えていただいた早川基金、ならびにその関係者のみなさまに心より感謝致します。